

九州支部 第5回気象サイエンスカフェ in 九州

福岡管区气象台 用具敏郎

2014年2月22日(土)福岡市において、第5回気象サイエンスカフェ in 九州を日本気象学会九州支部(以下、九州支部)、日本気象予報士会西部支部(以下、西部支部)の共催により開催した。会場として、第2回目から福岡市中心街の天神にある「風街(かぜまち)」という落ち着いた雰囲気の老舗喫茶店を利用している。

講師は、福岡大学理学部地球圏科学科の西 憲敬准教授であった。西先生の専門は熱帯気象学で、熱帯域でのいろいろな観測にも参加、当カフェ直前の1月下旬も海外での航空機観測を行われていた。テーマは『熱帯の気象～台風の生まれ育つところ』で、台風の生まれるところである熱帯気象のあらましや、台風の発生のようなすなどについて私たちに親しみやすくなるようお話いただいた。ファシリテータ(案内人)は、テレビで活躍中の堂本幸代気象予報士(山口朝日放送)である。九州支部や西部支部内での案内はもとより、防災士会、ふくおか市政だよりで広報に努めた結果、幸いにも2週間前には定員(35名)に達した。参加者は大学生から年配の方までとかなり幅広かった(第1図)。

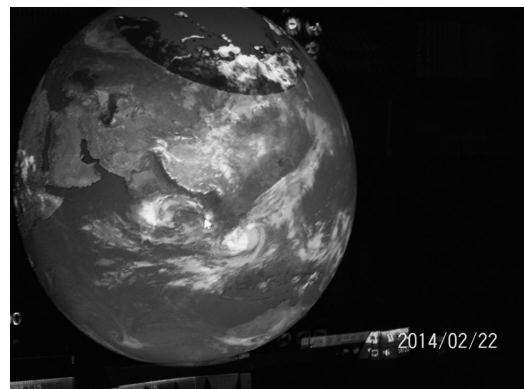
「熱帯」ってどんなところ? という問いかけから始まり、熱帯と福岡の夏の比較や、熱帯らしさをもたらす要因、台風の生まれるところと話は進んだ。ここで、実際に台風の生まれるところを見てみましょうということになり、「デジタル地球儀」を使って説明された(第2図)。デジタル地球儀(<http://dagik.org/>)とは、約1.5mの地球儀(正確には半球)に気象衛星の動画が投影され、雲の状況等を把握できるというものである。北極や南極等の高緯度でも、熱帯等の低緯度でも、東西のどこでも見ることのできるすぐれものである。

また、観測で良く訪ねられるインドネシアのパダン料理を紹介された。すばらしくおいしいそうである。

ここから台風発生条件へと話は移った。正渦の偏差をもたらす要因と、主に上昇気流によるストレッチングによって渦を強化する過程について、例を挙げな



第1図 参加者の前で分かりやすく話を進める西先生(右)とファシリテーターの堂本さん(左)。



第2図 デジタル地球儀に写し出された熱帯の気象衛星画像。

がらの説明であった。正渦のたねになるものにはモンスーントラフ、偏東風波動、赤道波、マッデンジュリアン振動などがある、積乱雲は暖かくて水蒸気のたっぷりある海上にできやすい、などである。

最後に熱帯に住むなら、最高気温が31度、最低気温は24度またはそれ以下のところが良いと思われるので、西先生のお勧めとしては海のすぐ近くならバリ

島、マレーシアの海岸部など、または標高1000 m 付近の高原ならスマトラ島やジャワ島の高原、プギティンギ・バンドンなどだそうである。ただし、四季のない世界に耐えられるか？ が移住の最大の決め手とのことであった。西先生の経験豊富な知識や巧みな話術、さらに堂本さんのフォローのおかげで、分かりや

すい話題提供となり、和気あいあいの中で無事終了した。

九州支部では、引き続きこのような社会貢献に取り組んでいくこととしている。開催にあたり、ご尽力いただいた方々に感謝申し上げます。